



# くまがみね

学校だより  
2023 (令和5) 年11月20日  
福山市立熊野小学校

## 小学校の先生になりたい！ ～ 熊野小卒業生 教育実習の1ヶ月間 ～

学校現場に先生が足りないことは、すでに社会問題です。深刻な教員不足の状況は、いつまで続くのでしょうか。このような社会状況の中、10月23日から11月17日まで、村上椋介さんが教育実習を行いました。本校の卒業生で現在大学3年生。実習前の打ち合わせの時、「将来は小学校の先生になりたい」という希望を熱く語ってくれました。今回は主に5年生の教室に入り、末廣先生の指導のもと、計画的に実習を進めました。

熊野小学校の卒業生が、小学校の教員をめざしてがんばっている姿は、熊野小職員にとってはうれしいものです。いつか同じ学校現場で働いているといいなと思います。そのために、協力できることはしてあげたいと思い、1ヶ月間を過ごしました。指導教官として毎日いねいに指導してくださった末廣先生、ありがとうございました。

「1日担任」を任せるといってもありますが、そのフォローを末廣先生がしなければならないので、2倍の仕事になりましたね。そこまでの覚悟をもって村上先生に学級を任せられたことが立派です。小学生も同じですが、何かを「任せる」ということは、自分で考えて動かなければならない必然性が生まれ、それが大きな達成感や自己肯定感につながります。村上先生も、その日は「とても勉強になりました」と、充実した表情で退校しました。

### 教育実習期間の「楽しかった」経験が、いつかきっと生きてくる

教師となり学校現場に出てみると、理想と現実のギャップに悩むことが多いものです。赴任する学校にもよりますが、夢を描いて教師となったものの、現実には自分の理想とかけ離れた内容の仕事に追われる日々。このような感覚を抱いた先生も多いのではないかと思います。そのような状況に陥ったとき、自分はなぜ教師という仕事を選んだのかという原点に立ち返る。その拠り所となるのが「教育実習での楽しかった経験」ではないかと思います。

担任であれば、学級の子どもたちに対する責任があり、保護者への対応もあります。毎日、緊張感をもって業務に従事しています。その点、教育実習は、期間限定の「体験」です。授業に関する実習もありますが、とにかく、子どもたちと遊びながら、たくさん関わってもらうことが大きな目的です。この期間の楽しい経験が、原点に戻る際の拠り所となるのです。

実習生の村上先生が、採用試験に合格し、数年後には学校現場に出ることでしょう。教師としての自分の理想を追い求めながらも、いつかは現実の厳しさにぶつかるといいます。その時に、熊野小学校での教育実習を思い出してほしいです。きっと、今回の経験が背中を押してくれます。



## 里山わくわく祭り in 熊野町

12日に行われた「里山わくわく祭り」では、6年生がステージ発表、5年生が「山田米」の販売体験で、それぞれ参加しました。6年生は小雨が降る中、「レッツゴー常國寺」の短縮バージョンを地域の方に見ていただきました。5年生のお店は、準備していたお米が完売しました。

実行委員会から、ステージ参加記念品や作品展示記念品（ノート）をいただきました。また、PTA役員さんをはじめ、参加された保護者のみなさま、準備や片付けで大変お世話になりました。ありがとうございました。



## 校長室も学びの場に 「校長先生に挑戦！」コーナーより

もうすぐ12月。先生が走り回るほど忙しい「師走（しわす）」とも言われます。1年が過ぎるのは早いと感じます。すでに来年の新しいカレンダーを準備されているご家庭もあるのではないのでしょうか。

そこで、12月の課題は、「和風月名」です。12月＝「師走」のように、12ヶ月それぞれ和風月名があります。カレンダーには和風月名が併記されていることも多いです。1月＝睦月（むつき）、2月＝如月（きさらぎ）、3月＝弥生（やよい）、…。これからの時期、見かける機会が増えるのではないかと思います。